

イルカとクジラのいる海

～伊勢湾・熊野灘～



目の前の海に
クジラやイルカがいる、
この驚きから
調査はスタート。



三重大学生物資源学部・助教授
(海生哺乳動物学)
吉岡 基 Yoshioka Motoi
[URL] <http://www.bio.mie-u.ac.jp/seimei/suiken/gyozo/index.html>

●三重県の海に!!

伊勢湾と熊野灘にクジラやイルカがかなり生息していることを知っていますか? 伊勢湾には、スナメリという背びれの無いイルカがごく普通に泳いでいます。熊野灘には、とくに春から夏にかけてマッコウクジラがやってきます。三重大学に赴任する前、私は、水族館のイルカを対象として繁殖に関する研究をしていました。しかし、今の職場にきて、自分がいるすぐ前の海にクジラやイルカがいることを知り、しかもそれらについての研究があまりされていないことを知りました。そこで私は、「それぞれの海でこの動物たちの調査を始めよう!!」と考えました。

●全国一斉スナメリの調査

2000年、当時の環境庁からの助成をうけ、東京大学海洋研究所の白木原教授(前三重大学教授)を中心とした調査チームが結成され、セスナ機を使った全国一斉のスナメリの生息数推定調査が行われました。私は、伊勢・三河湾の調査責任者として加わり、その結果から、ふたつの湾をあわせて現在約3,000頭のスナメリがいることがわかりました。しかし、その一方で、毎年少なからずのスナメリが三重・愛知両県の海岸に漂着している事実もあります。右上の表は、私が三重大学に赴任してから寄せられたスナメリの漂着件数をまと

めたものです。この数字は実態のごく一部であり、これだけの数のスナメリがどうして海岸に漂着するのか?今、学生さんや水族館の協力を得ながら調査を続けています。



▲セスナ機を使ったスナメリの生息数調査のときに研究仲間とともに名古屋空港で/右端が筆者

SPECIAL EDITION



調査フィールドでもある
那智勝浦町宇久井で
行われている
マッコウクジラの
ウォッチングのひとこま



生きて津市の海岸に漂着したスナメリ▲
この個体はこのあと鳥羽水族館に保護収容された

～スナメリの漂着件数の推移～ (伊勢湾の三重県側で筆者が把握した分のみ)

年	件数	備考
1994	4	5月赴任
1995	2	
1996	2	
1997	1	
1998	19	
1999	23	
2000	20	
2001	23	
2002	16	
2003	36	
2004	14	12月中旬現在

●熊野灘のマッコウクジラを追う

三重県のとりの和歌山県那智勝浦町でホエールウォッチングが行われています。沖縄や小笠原にいかなくても、みなさんもすぐ近くでクジラがみられるのです。私はそこで学生さんといっしょにウォッチング船に乗せてもらい、マッコウクジラの写真による個体識別調査と潜水行動調査(後者は東京大学との共同研究)を行っています。調査の目的は、マッコウクジラがこの海にどれくらいの期間滞在して、そこで何をしているのかを明らかにすることです。これまでの結果から、熊野灘には同じ個

体が何年もきまって来遊していること、そして数ヶ月間この海域にとどまること、昼夜の別なく1,000メートル以上の深さまで潜水を繰り返していることなどがわかっています。この熊野灘はマッコウクジラの生活にとって大切な海なのだとあらためて思いながらこの原稿を書いていると、「マッコウクジラも潜水病にかかる」との論文が出た!との電子メールが仲間から届きました。クジラは潜水病にかからないと信じられていますから、これは驚きです。この事実を裏付けられるか、あるいは否定される

のかは、今年の調査の新たな重要ポイントになるかもしれません。

伊勢湾と熊野灘。この海を眺めるチャンスがあったら、そこには小さなスナメリと、巨大なマッコウクジラが泳いでいることを思い出し、ワクワクしてもらえとうれしく思います。